

福島県

中学教育

発行所
 福島県中学校教育研究会
 責任者 丹治光夫
 印刷所
 (株) 第一印刷
 福島市岡島字古屋館1番2
 TEL 024-536-3232

- あいさつ……………福島県中学校教育研究会長 丹治 光夫 …… (1)
- 令和 4 年度 福島県中学校教育研究会 福島県教育委員会教育長祝辞… 福島県教育委員会教育長 大沼 博文 …… (2)
- 総会に臨んで……………副会長 芳賀 実 …… (2)
- 令和 4 年度 本会予算…………… (3)
- 令和 4 年度 運営方針及び事業計画…………… (4)
- 令和 4 年度 基本主題設定の趣旨と研究の進め方…………… (5)
- 各支部の研究の方向性について…………… (6)~(8)
- 令和 4 年度 中学校教育研究協議会 会津大会をひかえて…………… 会津大会実行委員長 遠藤 修一 …… (8)
- 令和 3 年度 中学校教職員研究作品の審査結果…………… 福島県中学校教育研究会研究推進部長 鈴木 豊 (8)~(9)
- 令和 3 年度 中学校教職員研究作品優良作品一覧…………… (9)
- 令和 4 年度 福島県中学校教育研究会役員一覧…………… 事務局 …… (10)

あいさつ

福島県中学校教育研究会長 丹治光夫



5月19日の「令和4年度第59回福島県中学校教育研究会総会」において、会長に選出されました福島市立福島第二中学校の丹治光夫と申します。副会長、各支部長、専門部長、事務局の皆様をはじめ会員の皆様のご支援をいただきながら、コロナ禍の中での運営になりますが、精一杯務めて参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため県中学校教育研究協議会県北・相双大会を书面開催とせざるを得ませんでした。当初2年ぶりの参集型開催を目指して、準備を進めてきましたが昨年8月の委員理事合同会の場で书面開催と判断したところでした。ご理解をいただき感謝申し上げます。また、各支部からの研究作品については、前年度を4点上回る25点もの作品が推薦され5月26日に、第1次審査を終了したところでした。

今年度からのサステナブルな中教研の取り組みとして、委員理事合同会の回数を年3回から2回に減じそのうちの1回(1月開催)をオンライン開催としました。総会にあっては、これまで総勢約200名の会員が一堂に会して実施していたものを、各支部長と事務局員のみでの参加として規模を縮小して開催し、また、5月中旬に実

施していた主題研修会を各専門部長会の中に盛り込み参集機会の低減を図りました。それらによって昭和39年の発足以来初となる会費の値下げを断行したところです。

昨年度、新学習指導要領が全面実施となりました。本研究会の基本主題も「主体的・対話的で深い学びを通して社会を生き抜く資質・能力を身に付け、ふくしまの未来を創造する生徒の育成」と改定し、各専門部会において今年度からの研究主題と令和4年度の研究副主題を確認したところです。各教科の研究主題のもと、福島県内の先生方が各支部の創意を生かした研究実践を積み重ね、指導方法についての成果や課題を協議したり、共有したりすることは、大変意義深いものであると考えます。今年一年間の県中教研の活動が、会員一人一人にとって役立つものとなり、ひいては福島県の子どもたちの成長につながることを心より願っております。

今年度の県中学校教育研究協議会は、会津地区での開催となります。研究協議会を実施するにあたり、北会津支部、耶麻支部、両沼支部、南会津支部の皆さんで過日実行委員会を立ち上げ、遠藤修一河東学園校長先生を実行委員長として、準備を進めています。実質3年ぶりの研究協議会をぜひとも成功させたいと考えています。

最後になりましたが、教育委員会等関係機関の方々には、これまで以上のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。また、本会の活動に多大なるご尽力をいただきました、退会された皆様方に衷心より感謝を申し上げます。

令和4年度 福島県中学校教育研究会 福島県教育委員会教育長祝辞

福島県教育委員会教育長 大沼博文



令和4年度福島県中学校教育研究会会報の発行に当たり、お祝いを申し上げます。

貴研究会におかれましては、昭和39年の発足以来、生徒の学力向上、心の教育などの充実や教育課題を的確に捉えた取組などを通じ、本県中学校教育の発展に御尽力いただいていることに対し、改めて敬意を表します。

東日本大震災及び原子力発電所事故から11年が過ぎ、本県は今後も復興・創生に向けて、様々な課題を乗り越えていかなければなりません。また、現在の新型コロナウイルス感染症の影響に加え、Society5.0の到来や地球環境問題等、将来を予測することが極めて困難な社会となっています。正解が一つとは限らない社会の中で、個人と社会のウェル・ビーイング（一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せ）を実現するには、児童生徒に自らの力で豊かな人生を切り拓き、多様な他者と共に豊かな社会や地域を創造する力を育むことが不可欠です。困難な課題を抱える本県であるからこそ、多様な他者との対話や協働を重視していく必要があります。

また、昨年度から中学校で全面实施されている学習指導要領では、生徒の資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、カリキュラム・マネジメントの充実、生徒の発達の支援、家庭や地域との連携・協働を重視しております。

こうした中、県教育委員会では、昨年12月に第七次福島県総合教育計画を策定し、これからの本県教育の柱に「学びの

変革」を掲げました。これは、全ての子どもに必要な資質・能力を育成するため、一方通行の画一的な授業から、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへの転換を進める「学びの変革」と、その実現のための環境づくりとしての「学校の在り方の変革」を目指すものです。今年度はその年次計画として策定した「学びの変革推進プラン」に基づき、6つの施策を進めてまいります。

施策1 「『学びの変革』によって資質・能力を確実に育成する」では、ふくしま学力調査等の結果を踏まえ、一人一人の学力や学習状況に応じた授業の改善を支援するなど、個に応じた学力の向上に取り組んでまいります。施策2 「『学校の在り方の変革』によって教員の力、学校の力を最大化する」では、教職員多忙化解消アクションプランⅡに基づく取組状況等の分析、成果の普及に取り組み、教職員が自ら学び、児童生徒と向き合う時間の確保に努めてまいります。

貴研究会におかれましては、「主体的・対話的で深い学びを通して社会を生き抜く資質・能力を身に付け、ふくしまの未来を創造する生徒の育成」という新しい基本主題のもと、変化する社会の中で、ふるさとふくしまに思いを寄せ、復興の中心となって新たな未来を創造するために活躍できる生徒を育てたいという思いを込めて、研究を進められると伺っております。教職員の皆さんが遺憾なく力を発揮され、より実践的な研究につながっていただくことを御期待申し上げます。

結びに、貴研究会のますますの発展と、会員の皆さんの一層の御活躍をお祈り申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

総会に臨んで

昭和から平成、そして令和へと益々変化の激しい、予測困難な時代を迎えています。特に、新型コロナウイルス感染症の影響から、一昨年、昨年と2年続けて中教研県大会が中止になるなど、今なお先が見通せない状況です。

こうした中、去る令和4年5月19日(木)、「第59回福島県中学校教育研究会総会」が福島県青少年会館で開催されました。今年度の総会は各支部長の出席と書面決議を併用した形で行われ、第1号議案から第4号議案が全て承認されました。また、第5号議案では新役員が選出され、丹治新会長のもと、今年度からの新しい基本主題である「主体的・対話的で深い学びを通して社会を生き抜く資質・能力を身に付け、ふくしまの未来を創造する生徒の育成」に基づく研究がスタートしました。

今回の総会が「第59回」ということで、福島県中学校教育研究会の歴史の重さとこれまでの歩みに思いを馳せるとともに、当時とはおそらく隔世の感がある現在の状況から、中教

福島県中学校教育研究会副会長 芳賀 実

研としての課題が山積しているということを改めて感じました。

総会に引き続き行われた支部長会では、各支部の現状と課題等について情報交換がなされました。どの支部でも会員数が減少し、特に技能教科においては深刻な状況です。魅力ある中教研が叫ばれる中、各支部とも様々な取組がなされていますが、コロナ下に加え、大量退職、再任用や新採用教員の増加など、大きな転換期を迎えており対応に苦慮しているのが現状です。

そんな中、県中学校教育研究協議会会津大会について、今年度はいかなる形でも実施したいと北会津支部長が力強く述べられていた姿が、特に印象に残りました。世代から世代へと受け継いでいくもの、逆にICTの活用など若手から学ぶもの、同じ教科同じ志を持つ教員が熱く語り合う場など、中教研としての役割があるのではないのでしょうか。

総会に臨み、常に学び続ける教師でありたいという思いを新たにしました。

令和 4 年度 本会 予算

収入 総 額 7,596,788 円
 支出 総 額 7,596,788 円
 差 引 残 額 0 円

1. 収入の部

項 目	令和4年度予算額	令和3年度予算額	比較増減	付 記
会 費	5,484,000	6,490,600	△1,006,600	2,000 円× 2,742 人
研究委託金	100,000	100,000	0	県中学校長会より
研究助成金	250,000	200,000	50,000	公務員弘済会より
繰越金	1,762,688	322,870	1,439,818	
雑収入	100	100	0	貯金利息
計	7,596,788	7,113,570	483,218	

2. 支出の部

項 目	令和4年度予算額	令和3年度予算額	比較増減	付 記
1 会議費	880,000	1,595,000	△ 715,000	
(1) 総会費	800,000	750,000	50,000	総会・主題研等旅費, 要綱印刷, 会場費
(2) 委員会費	40,000	60,000	△ 20,000	委員・理事合同会旅費 (年 3 回から 2 回に)
(3) 理事会費	10,000	5,000	5,000	理事会旅費
(4) 事務局会費	30,000	30,000	0	事務局会旅費
(5) 主題研修会費	0	750,000	△ 750,000	令和 4 年度より総会の日に実施
2 事務費	180,000	127,000	53,000	
(1) 通信運搬費	20,000	2,000	18,000	送料, 切手代
(2) 消耗品費	40,000	5,000	35,000	書類ケース, 封筒代
(3) 印刷費	40,000	40,000	0	運営要覧その 2
(4) 諸 費	80,000	80,000	0	会計監査会旅費, 令和 5 年度保険料 令和 5 年度ホームページ使用料
3 事業費	2,683,400	2,784,060	△ 100,660	
(1) 研究大会費	1,348,400	1,449,060	△ 100,660	支部事業費 548,400 会津大会費 (600,000) 大会要項・開催案内 200,000
(2) 研究調査費	715,000	715,000	0	専門部 715,000 (65,000 × 11 教科)
(3) 研究成果刊行費	0	0	0	
(3) 広報活動費	620,000	620,000	0	「中学教育」印刷代 (143号, 144号)
4 支部活動費	2,193,600	2,596,240	△ 402,640	各支部活動費
5 予備費	1,659,788	11,270	1,648,518	オンライン会議等整備費
計	7,596,788	7,113,570	483,218	

令和4年度 運営方針及び事業計画

1 運営方針

生きる力を身に付け、ふくしまの未来を切り拓く生徒を育てるため、会員一人一人が教育者としての自覚と使命感に基づき、自己研鑽を深め、切磋琢磨して、資質の向上を図り、中学校教育を一層充実振興する。

- (1) 基本主題設定の趣旨と各専門部の研究主題により実践研究を深め、各支部活動・各専門部活動を充実し、その成果を共有する。
- (2) 授業の質的改善を中核に研究を推進し、生徒の学力の向上及び心の教育の充実に資する。
- (3) 学習指導要領の趣旨やねらいに基づき、新しい教育の方向を見据えて研究活動を推進し、会員の資質向上を図る。
- (4) 双葉支部については、引き続き特段の配慮をする。

2 努力事項

- (1) 研究活動の充実
 - 基本主題並びに各専門部の研究主題、副主題の趣旨、ねらいの理解を深めるとともに、その解明に努める。
 - 前研究主題での成果と課題を踏まえ、本年度の研究主題における研究課題を明確にして研究を推進する。
 - 会員一人一人の教育の実践研究の成果を支部研

究協議会や県研究協議会を通して共有し、研究内容の一層の質的改善を図る。

- (2) 研究奨励事業の推進
 - 会員の自発的な研究活動を促進し研究内容の質的充実を図るとともに、研究活動事業を推進する。
 - 生徒の学習や自主的活動を奨励し、学習成果の発表等の推進を援助する。
- (3) 広報、出版活動の充実活用
 - 会報や各専門部部報の内容を充実させ、各支部、各専門部の情報交換や会員の教育活動に資する。
 - 研究集録の充実に努め、研究発表や研究協議会の成果の共有化を図る。
 - 学習指導について有効に活用できる広報活動の充実に努める。
- (4) 事業運営の工夫
 - 会議や研究協議会等の効率的な運営改善に努める。
 - 県研究協議会の運営に対する適正化について一層の検討を重ね、今後の研究会等の運営について工夫改善を図り、また、予算を効率的、且つ適正に運用する。
 - 双葉支部の活動においては、支部の実情を踏まえて推進する。

3 事業計画

月日	行事名	内容	会場	備考
4月中旬	支部総会	支部総会、専門部総会	各支部	
5. 19(木)	総会(午前) 専門部長会(午後)	総会：各支部長のみ参加 専門部長会：組織編成、主題研修	福島市	
5. 26(木)	理事会	県研究協議会の運営、主題研修会の反省、ワークブック刊行計画、専門部の経理事務の進め方、研究作品第一次審査	福島市	県専門部長、県事務局
6. 8(木)	研究作品審査会	研究作品第二次審査	福島市	県事務局
7月下旬	機関誌発行①	第143号(総会特集など)		
7月下旬	各支部研究協議会(夏季)	令和4年度研究主題による研究協議会、県研究協議会参加者の決定	各支部	
8. 16(火)	委員・理事合同会①	総会の反省、県研究協議会の運営、ワークブック刊行、研究作品審査結果	福島市	各支部長、県専門部長、県事務局
9月下旬	機関誌発行(特集号)	研究作品『優秀賞』特集		
9. 12(月)	ワークブック契約会	令和5年度使用ワークブックの契約	福島市	関係県専門部長、県事務局
10. 6(木)	県研究協議会 会津大会	授業公開、各専門部研究協議会	会津・南会津地区	参加者220名
10月～11月	各支部研究協議会(秋季)	令和4年度研究主題による研究協議会、県研究協議会の報告	各支部	
12月～2月	各専門部会	各専門部の研究推進、部報発行		
12月中旬	研究集録発行	県研究協議会会津大会のまとめ、研究主題の解説		
1. 18(木)	委員・理事合同会②	令和5年度運営計画、総会・研究会運営	福島市	各支部長、県専門部長、県事務局
2月下旬	研究作品提出締切り	令和4年度各支部研究作品提出		
3月上旬	機関誌発行②	第144号(令和5年度運営計画、研究主題、研究推進)		
3. 16(木)	会計監査	令和4年度会計監査	福島市	県事務局

※令和4年7月28日(木) 県中学校美術ゼミナール～29日(郡山市)
 ※令和4年9月8日(木) 県下小・中学校音楽祭合唱(アリオス)
 ※令和4年9月9日(金) 県中学校英語弁論大会(田村市文化センター)
 ※令和4年10月13日(木) 県下小・中学校音楽祭合奏(喜多方プラザ)
 ※令和4年12月2日(金) 県生徒造形作品研究会並びに秀作審査会(郡山青少年会館)

令和 4 年度 基本主題設定の趣旨と研究の進め方

基本主題：「主体的・対話的で深い学びを通して社会を生き抜く資質・能力を身に付け、ふくしまの未来を創造する生徒の育成」

1 基本主題設定の趣旨

これからの時代は、生産年齢人口の減少、グローバル化や技術革新等により、社会構造や雇用環境が急速に大きく変化する中、急激な少子高齢化が進み、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待されている。また、人工知能 (AI) が飛躍的な進化をとげ、雇用の在り方や学校で獲得する知識の意味に大きな変化がもたらされても、思考の目的を与えたり、目的の正しさ・美しさを判断したりできるのは人間の最も大きな強みであるということの再認識につながっていくとも言われている。

このような時代にあって、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けられるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められる。

平成30年度から令和3年度には、基本主題を「主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を身に付け、ふくしまの未来を切り拓く生徒の育成」として、研究実践してきた。令和4年度からは、新しい基本主題に基づく研究を推進していくことになるが、令和3年度に新学習指導要領が全面実施となったことを踏まえて、今までの研究成果を基に、各教科で「主体的・対話的で深い学び」をさらに具体化、深化させる3年間の研究になると考える。また、「生きる力」という理念をより具体化した「社会を生き抜く資質・能力」を育むには、これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い、関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力を各教科等において明確にすることが重要になる。

震災から10年以上が経過しても、子供たちが変化

する人材に育つことを願い、県中教研として、そのような生徒を育てなければならないという使命感も込められた。

各専門部においては、これまでの研究の成果及び課題を十分に踏まえながら、これらの趣旨に基づき、会員一人一人が、本会の目的に適合した主体的な研究が発展的に推進できるよう、創意工夫が望まれる。

2 研究の進め方

東日本大震災から10年以上が経過してもなお厳しい教育環境の中にあって、「生徒にとって、最も身近で、最も重要な教育環境は教師であり、授業である」ことを肝に銘じ、本会設立当初の「教育を愛する者が、愛する生徒たちのために、自分に鞭打つその鞭を求めて集い合う研究団体である」という原点に立ち返って、教師としての情熱と使命感をもって研鑽に励むことが望まれる。

各支部・各専門部は、昨年度までの研究の成果と課題を踏まえつつ、基本主題設定の趣旨を十分に踏まえた上で、研究のねらい、内容や方法を明示して研究実践に取り組む必要がある。そのために次の点をおさえて実践内容の重点化を図り、研究の深化が得られるように努力する。

- (1) 基本主題、研究主題・副主題の設定の趣旨の周知を図り、その趣旨が十分に生かされた研究実践を推進する。
 - 会員の共通理解に立った研究計画のもと研究を実践する。
- (2) 各支部においては、昨年度までの研究の成果と課題を踏まえながら、研究推進1年次として課題と方向性を明確にして研究実践を推進する。
- (3) 会員一人一人が、研究主題・副主題の趣旨を理解し、自校の生徒の実態に即応した、実効ある研究を推進する。
 - 生徒の実態をとらえ、課題を明らかにし、研究の有効性を的確に評価しながら継続的に研究実践を推進する。
- (4) 支部研究協議会の運営等について工夫し、各専門部の研究活動を充実させる。
 - 各支部会員相互の研究実践に対する意識の高まりを促し、充実した運営を工夫する。
- (5) 各教科で発行している部報を適切に活用し、研究実践を推進する。
 - 日常的な研究実践に活用するとともに、主題研修報告会、研究協議会での活用を図る。

各支部の研究の方向性について

国語部会

田村市立都路中学校 榊原 康夫

- 田村支部国語科は、研究の方向性として「言葉を～中略～育成するための課題設定の工夫及び言語活動の工夫」についての実践を中心に、集積していくことを研究の方向性としている。
- 副主題に関する「知識及び技能の定着を図り、それを活用するための指導の工夫」では、①知識及び技能の定着そのものを目指した授業、②前時までに学習した知識及び技能の活用を目指した授業について、どのような育成したい力と結びついているか、過去の全国学力・学習状況調査の問題との関連を明らかにした実践のまとめを行うこととした。実践と共に問題分析を行うことで、自己の振り返りを具体的にし、問われている力と結びついた実践力の向上につなげることがねらいである。
- 夏季研究協議会は、上記の内容についての各実践発表、研究協議とする。次の秋季研究協議会は、教科書の構成、内容に関する研修会を行うこととした。
- 令和5年度、6年度の県大会は田村地区が2年連続で発表になる。日頃の実践を集積し、反省を生かした実践になるよう今年度から準備していき、「ためになり、面白い中教研の国語部研修会」になるよう進めていきたい。

数学部会

磐梯町立磐梯中学校 秋山 了

- 今年度より新たな研究主題「数学的に考える資質・能力を育成する指導はどうすればよいか」が設定されました。今年度は「主体的に学習に取り組む態度を養う指導の工夫」の副主題のもと、研究を推進していきます。
- 本支部では、副主題に迫るために部報で示された「生徒が主体的な学習に取り組むための授業づくりで留意したい6つの視点」すべてが重要であり、また、幅広い視点からの授業づくりが大切であると見え、一つの視点に限定することなく日頃から6つの視点に留意した授業づくりと実践に取り組むことで、副主題に迫りたいと考えています。
- 7月の第1次研究協議会では、各会員が日頃の実践とそれらの成果や課題等についてまとめた資料をもとに協議を深めることで、支部全体として副主題にさらに迫っていきたいと考えています。また、昨年度の反省と支部会員の要望から、研究主題にとらわれずに、教材研究や評価等の日頃の実践や授業づくりに関して、小グループを編成して自由に話をする時間を設定する予定です。
- そして、10月6日に行われる県研究協議会会津大会での公開授業や研究協議で研鑽をさらに積み重ねて、授業力と資質の向上を図っていききたいと思えます。

社会部会

白河市立東中学校 川口 和彦

- 今年度から県専門部長会の中で研究の進め方を確認することになりましたが、その結果を支部に持ち帰り、報告会において支部としての研究の方向性の確認を行い、研究をスタートさせることができました。
- 東西しらかわ支部では、研究主題・副主題をもとに、社会的な「見方・考え方」を働かせ、「主体的に学ぶ力を育てる」授業の工夫について研究を進めていきます。その際、授業における課題解決の「視点や方法(考え方)」を明らかにして授業を行うこと。また、「主体的に学ぶ力」を育てるために、①興味・関心をもって学習に取り組むこと、②見通しをもって取り組んでいること、③ねばり強く取り組んでいること、④自分の学びの振り返りができること、の4つの視点に着目して授業を実践していきます。
- この2年間は、新型コロナウイルス感染症の影響で、東西しらかわ支部としての事業が中止になることが多々ありましたが、今年度はできる限り各校で研究実践を積み重ね、夏の研究協議会でその資料を持ち寄った研究協議を行うことと、秋の授業研究会で提案授業を行い、手立ての有効性について検証していくことで、支部として実りある研究にしたいと考えています。

理科部会

喜多方市立山都中学校 菅野 泰英

- 耶麻支部では、県の研究主題・副主題を受け、令和4年度以降の研究推進について、以下のような方向性で取り組んでいくこととした。
- (1) 支部としての研究主題の受け止め方
科学的に探究する学習活動を「課題に対して理科の【見方・考え方】を働かせ、観察・実験を見通しを持って取り組み、その結果等を分析・判断する学習活動」と位置づけた。
- (2) 支部としての研究の進め方とその内容
- ① 研究する単元の設定とその単元内の数時間のまとまりで【見方・考え方】を設定し、指導の見通しを明確にする。
 - ② ①の見通しの中で、ICTを活用することでより良い成果が得られる場面を設定し授業実践を行う。
 - ③ 各自実践授業で得た成果や課題を一次研、二次研等で共有すると共に、Googleの共有ドライブを支部で設定し、授業で有効だった情報等の意見交換や連絡等を行う。
 - ④ 研究のまとめを各自行い、支部としての研究の成果や課題を蓄積していくことで、次年度の研究に継承できるようにする。

音楽部会

昭和村立昭和中学校 小寺 真紀

- 本支部では、県の主題研及び学習指導要領の「音楽科の目標」(P9～P16)を踏まえ、副主題の「実感を伴う」「知識・技能」「教材構成の工夫」の在り方や考え方、授業の実践方法などの共通理解を図った。
- 授業については、①生徒が「わかる・できる・おもしろい」と感じられる工夫、②音楽を形づくっている諸要素の取扱いと共通事項の確認、③楽譜を基盤とした授業実践等、音楽科の内容をさらに充実させるための授業改善を行うこと等を共通理解した。中でも「見方・考え方が変わっていく言語支援」「できるだけ楽譜を材料として」「生徒たちの日々の活動(生活)と関連付け」「生徒たちが創意工夫できる支援を」等を踏まえ、生徒の見方や考え方を変え、楽曲の素晴らしさやおもしろさへの気付きをうながす工夫をして取り組むことを確認した。
- なお、今年度の一次研も、耶麻支部との合同開催・研究とし、指導助言者は立てず、各自が取り組んだことについて、簡単な形式で持ち寄り、全員で協議し、先生方の授業力(指導力)向上につながる取組としたい。

できるだけ、会員の負担感をなくし、「達成感」や「充実感」が感じられる研修になるよう、本支部での研究実践の在り方や取り組み視点を変えていきたい。

保健体育部会

川俣町立川俣中学校 佐藤 力夫

今年度から3年間、学習指導要領保健体育科の目標に示されている「体育や保健の見方・考え方」を自在に働かせ、生涯にわたる心身の健康の保持増進と豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む「主体的・対話的で、深い学び」となる学習指導の在り方について研究していく。今年度はその1年目として「運動に主体的に取り組む態度や意欲を高める指導計画及び学習過程の工夫」に重点をおいて研究を進める。

具体的には、各校ごとに次に示す研究内容(1)~(3)の何れかについて研究を進め、その成果を持ち寄り、今年度の副主題に迫るためにどのような授業の工夫や改善を図ったのか、指導の意図や生徒の活動・変容がわかるよう、支部の研究の成果としてまとめる。

ー研究内容ー

- (1)体育の見方・考え方を明確にするとともに、運動の 価値や特性の理解を深めるための指導方法の工夫
- (2)運動の楽しさや喜びを実感し、「する・みる・支える・知る」など多様な関わりを感得できる単元計画や学習過程の工夫
- (3)主体的な態度や意欲を高める指導と評価の一体化を 図る指導方法の工夫

美術部会

檜枝岐村立檜枝岐中学校 上野 一幸

今年度からの研究主題は、「多様な見方や感じ方を深め、心豊かに創造する力を育む造形活動はどうすればよいか」であり、今年度の副主題は、「造形的スキルを身に付けさせる工夫」である。

スキルとは、「反復訓練の結果修得した技能・技術のこと」(『新明解国語辞典』三省堂)であり、「造形的」スキルとは、美術作品を作り上げる際に関わるスキルであると捉えることができる。

「多様な見方や感じ方」を深めるためには、造形作品の形や色彩、材料などの構成要素に着目する視点や、全体的な特徴からイメージを捉える視点を持つことが必要である。

また、「心豊かに創造する」ためには、自分が思い描いたことを具現化できるスキルが必要である。そのために、発達段階に応じた表現技能の基礎基本を定着させる活動を計画的に行うと共に、生徒一人一人が試行錯誤しながら創造する体験を積み重ね、自分の表現したいことを色や形で表現できるスキルを高めていきたい。

美術科として、多様な見方や感じ方を深め、感性を揺さぶり、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けさせたい。

技術部会

相馬市立中村第一中学校 千葉 正俊

今年度から相双支部では、「情報の技術」(技術部会)「衣食住の生活」(家庭部会)を研究領域として、研究副主題である「生活や社会の中から課題を見出し、見直しを持って解決しようとする課題設定の工夫」に向けて、生活や社会における問題や課題を取り上げ、探究型授業の実践から、見直しを持って解決するための課題設定や、「深い学び」へとつながるための手立てについて研究を進めることとした。生徒たちの生活体験や経験には個人差があるが、授業における学びが、生徒一人ひとりにとって必要性のあるものにするためには、課題意識をどう引き出すかがポイントであり、問題提示の仕方が重要であるといえる。生徒の現状をしっかりと把握し、個々の成長につなげるためにはどうすればよいか考えていきたい。

また、度重なる地震や災害から課題を見出し、技術の果たす役割について考えさせる授業、SDGsの視点を踏まえた授業やICTの活用など、支部会員が少ない人数での研究となるが、日頃の実践事例を持ち寄り、情報交換を行いながら研究を進めていきたい。

家庭部会

いわき市立田人中学校 高萩 雅人

研究主題「生活の営みや技術に係る見方・考え方を働かせ、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するための指導はどうすればよいか」の研究がスタートした。

今年度は、副主題「生活や社会の中から課題を見だし、見直しを持って解決しようとする課題設定の工夫」を意識して実践研究に取り組んでいく。本支部の研究対象は「C 消費生活・環境」である。

研究の方向性として、以下の五点で進めていく。

- ①各授業者が、自校生徒の資質・能力について現状分析を行う。
- ②生徒の目線で、生活や社会の中にある課題にはどのようなものがあるか洗い出す。
- ③生徒が主体的に課題を見いだすための導入のあり方を工夫する。
- ④生徒が粘り強く学習に取り組むための見通しの持たせ方について工夫する。
- ⑤生徒が主体的・対話的に解決しようとする課題設定の仕方を工夫する。

上記の内容で各自が研究を進め、夏の研究協議会では実践を発表したり、より効果的な指導法について協議を行ったりするとともに、実践上の課題について意見交換を行うことで課題を共有する。また、秋の公開授業では手立ての有効性について検証を行う。

道徳部会

二本松市立岩代中学校 遠藤 康成

安達支部道徳部会は、9名の部員により構成しています。部員の多くは各学校において道徳教育推進教師を務めており、学校の道徳教育の推進役を担っています。

「考え、議論する」道徳科の授業の実践に向けて、部員自身の指導力向上と学校の道徳教育の充実のために意欲的な姿勢で研修に参加しています。

研究主題の初年に当たり、改めて支部の課題を洗い出した結果、次の点が挙げられました。

- ◆対面での対話、交流による授業、体験活動・研修の設定
- ◆教員間のネットワークの構築、教員間の学び合い
- ◆ICTの効果的活用、指導事例の共有
- ◆校内外の人材活用(ゲストティーチャー等)
- ◆多様な発言を引き出す発問、自己を見つめさせる発問
- ◆「振り返り」「自分を見つめる」時間の確保
- ◆評価(変容の見取り・フィードバック・記録の累積)

これらの課題を踏まえ、「各自が副主題に迫るための『指導方法』に焦点を当てるとともに『見取り・評価』を充実させる。『指導』と『評価』を一体化して捉えることにより、より効果的で実践的な取組にする。」ことを、部員全員で確認し、実践研究をスタートさせることとしました。

英語部会

伊達市立霊山中学校 山内 崇 司

伊達支部では、昨年度、福島県教育センター指導主事による研修会を実施し、他者や社会、世界との関わりの中で捉えた言語活動の設定の仕方や、課題解決の際に体験的理解を促すことが深い学びにつながることを学んだ。

今年度の県中教研英語部の研究主題・副主題を受け、研究の方向性としては、次の2点を重点実践事項とする。

- 1 学んだことを生かした課題設定の工夫
修学旅行や職場体験、福祉体験などの学校行事や体験活動と関連させたり、他教科との連携を図ったりすることで、学んだことを生かした言語活動の設定を工夫する。
2 4つの観点を意識した言語活動の工夫
見方・考え方を働かせるために以下の4つを意識した場面、状況の設定を工夫する。
(1) 既習のものも含めて習得した概念(知識)を相互に関連付けてより深く理解させる。
(2) 情報を精査して考えを形成させる。
(3) 課題を見いだして解決策を考えさせる。
(4) 身に付けた思考力を発揮させる。
これらの研究の視点に基づいて授業を構想し、実践を発表・共有し、研究を深めていきたい。

特別活動部会

郡山市立小原田中学校 菊池 博 基

本支部ではこれまでの研究主題で、深い学びを通したよりよい人間関係が構築できる特別活動について学級活動や生徒会活動、学校行事を通して研究を進めてきた。

本支部は、大規模校が多く、人数が多いことで「自分がやらなくても誰かがやってくれる」という意識をもつ生徒が出てきてしまう。これらの生徒に「自分事」として所属感をもたせることは、今回の主題において重点的に進める内容であると考えられる。

また、副主題を受け、本支部では学級や生徒会での指導を中心として研究を進めていく。地域社会と関わる際には「SDGs」と関連を図り活動の充実を努める。学級活動や生徒会活動などについて、集団のリーダーとなる生徒を中心に、自分たちの集団をより良くしていく方法を考えさせていきたい。

今年度も、各学校の実践や試案についてまとめてもらい、第一次研究協議会で資料を持ち寄って協議を行う。また、10月に行われる生徒会交歓会では、学校規模ごとにテーマを決めて話し合う予定である。各校の生徒会役員が学校生活の向上のための課題とその解決方法、地域社会との関わりについて話し合い、自校に持ち帰って活用できるような有意義な交歓会にしていきたい。

令和4年度中学校教育研究協議会

会津大会をひかえて

会津大会実行委員長 遠藤 修一
(会津若松市立河東学園)



今年度もコロナ対策を講じながらのスタートになりましたが、今までとは異なり、様々な行事が工夫をしながら開催されるようになってきました。

会津大会の実施にあたり、昨年度から会津の各支部で話し合いを進めてきました。近年の会津地区では会員数の減少に伴い、運営に苦慮する専門部が増加し、耶麻・両沼支部は合同で研修を行っています。

会津地区最大の北会津支部も、美術部会や技術・家庭

部会では、運営が難しくなってきました。しかし、今回「会津大会」をお受けするにあたって、できることをやっという南会津支部も含めた4支部で支部長会を行い確認しました。

先日の県の支部長会で、①どのような形でも実施する、②人はできるだけ集めない、③お金はかけない、という実施3原則を報告しました。今後、この3原則をどのように具体化するか、検討し、準備していきたいと思います。未来を生きる子どもたちのためになる研修に少しでも寄与できる「会津大会」にしていきたいと思います。

令和3年度中学校教職員研究作品の審査結果

福島県中学校教育研究会研究推進部長 鈴木 豊

令和3年度の各支部推薦教職員研究作品25点について、去る5月26日の第一次審査において、優秀作品5点を選出し、6月8日に第二次審査を行い、優秀作品の中から最優秀作品として2点を選出いたしました。

審査の内容及びその結果を報告いたします。なお研究内容、審査講評等は特集号において公表いたします。

- 1 研究作品の領域別出品数
学習指導22 道徳・特別活動等3点 合計25点
2 審査の観点
(1) 研究の構想
・研究の目的 ・研究計画・方法 ・研究の理論
(2) 研究の内容
・実践の適切性 ・内容の一般化 ・資料の累積

- (3) 研究のまとめ
・結論の妥当性 ・研究成果の活用性
・表現や記述、まとめ方の工夫
(4) 研究の総合性
・研究の価値

- 3 審査員
(1) 第一次審査
会長・事務局長・県専門部長(理事)・事務局員
(2) 第二次審査
福島県教育庁義務教育課 主任指導主事 舟木 武志 先生
福島県教育センター 主任指導主事 木戸 美智子 先生

4 審査結果

(1) 最優秀賞

No.	支部名	氏名	学校名	教科・領域	研究テーマ
1	福島	代表 嶋原 俊洋	渡利中	学習指導	主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業づくり ～ICTの効果的な活用による情報活用能力を高める学習活動の工夫～
2	北会津	代表 阿久津光俊	若松六中	学習指導	学びに向かう力の育成 ～4つの視点「実感」「継続」「関わり」「見える化」からの働きかけを通して～

(2) 優秀賞

No.	支部名	氏名	学校名	教科・領域	研究テーマ
1	安達	代表 三津間勝彦	本宮二中	学習指導	主体的に学び、新たな課題に挑戦し続ける生徒の育成 ～6つのキースキルを高める授業を通して～
2	郡山	代表 橋本 公秀	安積二中	学習指導	「主体的・対話的な学び」による『確かな学力』の育成 ～タブレットを活用した、新たな「対話的な学び」を育む学習活動を通して～
3	東西 しらかわ	代表 小野里高広	東中	学習指導	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の創造 ～「見方・考え方」を働かせながら深い学びを実現する授業の工夫～

●—— 令和 3 年度 中学校教職員研究作品優良作品一覧 ——●

No.	支部名	氏名	学校名	教科・領域	研究テーマ
1	福島	代表 嶋原 俊洋	渡利中	学習指導	主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業づくり ～ICTの効果的な活用による情報活用能力を高める学習活動の工夫～
2	福島	代表 斎藤 剛	信夫中	学習指導	「学びに向かう力」を育む指導の工夫 ～さらなる信夫スタイルを目指して～
3	福島	代表 岩野 政二	山木屋中	学習指導	地域づくりに主体的に参画する生徒の育成 ～積極的な地域づくりへの参画を目指した「ふる里やまきや科」のカリキュラムデザイン～
4	伊達	代表 二瓶 匡弘	梁川中	学習指導	自ら考え、表現し、共に高め合う生徒の育成 ～学びを深める学習サイクルの工夫～
5	伊達	代表 石綿 厚	醸芳中	学習指導	主体的に学習に取り組み、学び高め合う授業の創造 ～4つのステップを活かした問題解決的な学習を通して～(3年次)
6	安達	代表 安田 浩明	大玉中	学習指導	「自ら問題を発見し、解決に向けて主体的に取り組む生徒の育成」(3年次) ～教科横断的な視点を通して～
7	安達	代表 三津間勝彦	本宮二中	学習指導	主体的に学び、新たな課題に挑戦し続ける生徒の育成 ～6つのキースキルを高める授業を通して～
8	郡山	代表 橋本 公秀	安積二中	学習指導	「主体的・対話的な学び」による『確かな学力』の育成 ～タブレットを活用した、新たな「対話的な学び」を育む学習活動を通して～
9	郡山	代表 安田 良一	郡山三中	学習指導	「主体的・対話的で深い学び」を通した学力向上(2年次) ～ふくしまの「授業スタンダード」を基盤とした授業改善～
10	郡山	代表 宗像 達郎	緑ヶ丘中	学習指導	「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善をしていく上で、ICTを有効に活用するには、どうすればよいか ～生徒の実態や教科の特質をふまえた実効性のあるICT機器活用の工夫～
11	郡山	代表 半沢 一寛	西田学園	学習指導	学び続ける子どもを育む西田の教育 ～「たて」「よこ」のつながりがつむぎだす学び～
12	岩瀬	代表 八木沼 孝夫	須賀川一中	学習指導	主体的・対話的で深い学びを通して、生徒の可能性を伸ばす学習指導の在り方 ～学び合い、高め合う学習活動の工夫～(1年次)
13	岩瀬	代表 渡部 幹雄	湯本中	学習指導	粘り強く思考し、自分の考えを深めようとする生徒の育成 ～ふくしまの「授業スタンダード」とICTを効果的に活用した授業の充実を通して～
14	石川	代表 岡崎 寛人	玉川中	特別活動 総合的な学習の時間 道徳	統合後の学校づくりを担う生徒の育成 ～「よりよい集団」を育てるための工夫～
15	石川	代表 舟木 武志	浅川中	学習指導	主体的に学び、表現する力を高める指導はどうあればよいか ～対話的な学びを通して、考えを深める指導の工夫～
16	田村	代表 高橋 みどり	滝根中	学習指導	ユニバーサルデザインの視点を生かした主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ～学びの見直しをもたせる工夫【焦点化】～
17	田村	代表 金子 伸之	小野中	学習指導	考えぬき、わかった・できた体験のある授業づくり ～ユニバーサルデザインの視点を基にして～
18	東西 しらかわ	代表 高田 健一	白河中央中	学習指導	確かな学力を身につける授業の創造 ～主体的に学び、思考力・表現力を高める指導の工夫～
19	東西 しらかわ	代表 小野里 高広	東中	学習指導	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の創造 ～「見方・考え方」を働かせながら深い学びを実現する授業の工夫～
20	北会津	代表 阿久津 光俊	若松六中	学習指導	学びに向かう力の育成 ～4つの視点「実感」「継続」「関わり」「見える化」からの働きかけを通して～
21	耶麻	代表 板橋 和典	喜多方一中	特別活動	生命の大切さを尊重して行動できる生徒の育成 ～地域と連携し、地域に学ぶ防災教育の実践～
22	南会津	代表 大内 進矢	荒海中	学習指導	多面的・多角的な見方・考え方を深める授業の工夫 ～自主的な学びの意欲向上を目指して～
23	南会津	代表 飯塚 敏明	檜枝岐中	道徳	自ら伸びようとする児童生徒の育成 ～少人数教育・小中一貫教育を活かして～
24	相馬	代表 反畑 増生	向陽中	学習指導	「自ら気づき、前向きに考え、協働して実行する」生徒の育成 ～集団と地域・社会との関わりを通して～
25	双葉	代表 佐藤 仁	葛尾中	学習指導	生徒の自己マネジメント力を育てる少人数の特性を生かした学習指導の研究 ～ICTの活用及びカンファレンスと振り返りによる表現力の育成～

令和4年度 中学校教育研究会役員一覧

役職名	氏名	学校名	郵便番号	学校所在地	電話番号	
会長	丹治光夫	福島二中学校	960-8133	福島市桜木町5-20	024-534-2166	
副会長	石綿厚	醸芳中学校	969-1661	伊達郡桑折町大字上郡字柳下5	024-582-3162	
	芳賀実	郡山七中学校	963-0209	郡山市御前南二丁目110	024-951-8200	
	遠藤修一	河東学園	969-3441	会津若松市河東町南高野字金剛田1	0242-75-3011	
	佐藤恭司	石神中学校	975-0075	南相馬市原町区石神字北畑47-1	0244-22-3373	
	松本仁志	平二中学校	970-8023	いわき市平鎌田字味噌能2	0246-25-2479	
監事	二平光明	浅川中学校	963-6204	石川郡浅川町大字浅川字大明塚120	0247-36-2023	
	安田浩明	大玉中学校	969-1302	安達郡大玉村玉井字の場93	0243-48-3300	
	島貫健	平野中学校	960-0231	福島市飯坂町平野字箱ノ前3-3	024-542-3074	
委員	福島	丹治光夫	福島二中学校	960-8133	福島市桜木町5-20	024-534-2166
	伊達	石綿厚	醸芳中学校	969-1661	伊達郡桑折町大字上郡字柳下5	024-582-3162
	安達	安田浩明	大玉中学校	969-1302	安達郡大玉村玉井字の場93	0243-48-3300
	郡山	芳賀実	郡山七中学校	963-0209	郡山市御前南二丁目110	024-951-8200
	岩瀬	岡部昭彦	須賀川三中学校	962-0816	須賀川市朝日田54	0248-73-2377
	石川	二平光明	浅川中学校	963-6204	石川郡浅川町大字浅川字大明塚120	0247-36-2023
	田村	高田秀人	船引南中学校	963-4204	田村市船引町堀越字丸森70	0247-85-2811
	東西しかわ	金子景二	泉崎中学校	969-0101	西白河郡泉崎村大字泉崎字上陣場14	0248-53-2412
	北会津	遠藤修一	河東学園	969-3441	会津若松市河東町南高野字金剛田1	0242-75-3011
	耶麻	佐藤毅	喜多方三中学校	966-0045	喜多方市字南原3475	0241-22-5121
	両沼	小関英紀	本郷中学校	969-6041	大沼郡会津美里町字川原町1933	0242-56-3005
	南会津	飯塚敏明	檜枝岐中学校	967-0525	南会津郡檜枝岐村字下ノ原892	0241-75-2344
	相馬	佐藤恭司	石神中学校	975-0075	南相馬市原町区石神字北畑47-1	0244-22-3373
	双葉	馬場隆一	なみえ創成中学校	979-1513	双葉郡浪江町大字幾世橋字来福寺西73	0240-23-5336
	いわき	松本仁志	平二中学校	970-8023	いわき市平鎌田字味噌能2	0246-25-2479
理事	国語	千葉英一	北信中学校	960-0102	福島市鎌田字御仮家20	024-553-5049
	社会	鈴木豊	信夫中学校	960-1101	福島市大森字南内町31-1	024-546-7693
	数学	菅原克章	西信中学校	960-2155	福島市上名倉字道上6	024-593-1049
	理科	阿部洋己	松陵中学校	960-1241	福島市松川町字上桜内3-4	024-567-2040
	音楽	湯田公夫	平野中学校	960-0231	福島市飯坂町平野字箱ノ前3-3	024-542-3074
	美術	浅野太平	福島四中学校	960-8013	福島市南平5-8	024-535-4240
	保体	佐藤力夫	川俣中学校	960-1464	伊達郡川俣町字宮ノ脇14	024-566-4111
	技・家	福地淳一	清水中学校	960-8254	福島市南沢又字清水端23	024-559-0085
	英語	川名健一	西根中学校	960-0211	福島市飯坂町湯野字大平2	024-542-4641
	道徳	神尾孝弘	山木屋中学校	960-1501	伊達郡川俣町山木屋字小塚山9-1	024-563-2104
特活	渡部正晴	吾妻中学校	960-2261	福島市町庭坂字原田8	024-591-1109	
事務局長	高澤正男	野田中学校	960-8057	福島市笹木野字市街道28-1	024-531-0031	
総務部長	嶋原俊洋	渡利中学校	960-8141	福島市渡利字平内町106	024-523-5500	
同 副部長	渡部正晴	吾妻中学校	960-2261	福島市町庭坂字原田8	024-591-1109	
研究推進部長	鈴木豊	信夫中学校	960-1101	福島市大森字南内町31-1	024-546-7693	
同 副部長	菅野重徳	附属中学校	960-8107	福島市浜田町12-26	024-534-6442	
刊行部長	湯田公夫	平野中学校	960-0231	福島市飯坂町平野字箱ノ前3-3	024-542-3074	
同 副部長	川名健一	西根中学校	960-0211	福島市飯坂町湯野字大平2	024-542-4641	
一般会計部長	神尾孝弘	山木屋中学校	960-1501	伊達郡川俣町山木屋字小塚山9-1	024-563-2104	
同 副部長	船木浩和	北信中学校	960-0102	福島市鎌田字御仮家20	024-553-5049	
研究調査会計部長	熊谷幸司	大鳥中学校	960-0201	福島市飯坂町字箱11	024-542-4284	
同 副部長	工藤ひろみ	野田中学校	960-8057	福島市笹木野字市街道28-1	024-531-0031	